

第 58 回 ESRI 経済政策フォーラム
「インバウンド観光産業の生産性向上」
～地域活性化のためのデジタル・イノベーション～

1. 開催概要

- (1) 日時：令和元年 11 月 25 日（月）14:30～17:00
- (2) 場所：イイノカンファレンスセンター Room B
（千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング 4 階）

(3) 一般参加者数：80 名程度

(4) プログラム：

○研究成果報告

栗原准教授：宿泊施設の IT 活用と生産性

矢部准教授：地方圏域への外国人旅客流動とその影響要因

○パネルディスカッション

コーディネーター

清水 哲夫 首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域教授

パネリスト（50 音順）

加藤 史子 WAmazing 株式会社 代表取締役社長 CEO

栗原 剛 東洋大学国際観光学部准教授

柴田 良馬 城崎温泉旅館但馬屋 代表取締役社長

鶴本 浩司 トラベルボイス株式会社 代表取締役社長

矢部 直人 首都大学東京都市環境学部准教授

2. 議事概要

(1) 研究成果報告

栗原准教授からは、宿泊施設における IT 活用状況と生産性との関連性についてアンケート調査の分析結果が報告された。その結果、外国人観光客受け入れの多い施設と IT 活用をしている施設の生産性上昇率が高いこと、旅館では海外予約サイトを多数活用し、宿泊予約・顧客管理などに重点的に IT を活用することで生産性が向上することなどが示された。



栗原 剛 東洋大学国際観光学部准教授

矢部准教授からは、2013 年頃を境として地方の周遊ルートが細分化されてきたことが示唆され、その要因として地方の周遊ルート内にある空港への外国からの直行便が影響した可能性が報告された。また、東北・北陸・四国などの地方圏域訪問に影響する旅行者側の要因としては、公式ブログ・公式動画や日本で入手したガイドブックを情報源としている可能性があることなどが示された。



矢部 直人 首都大学東京都市環境学部准教授

(2) パネルディスカッション

柴田氏からは、旅館・ホテル業界における課題解決の手段として宿屋 EXPO の取り組みが紹介され、議論では地方の宿泊施設などにおける人的・物的リソースの共有が生産性向上につながる可能性があることが示された。



柴田 良馬 城崎温泉旅館但馬屋 代表取締役社長

加藤氏からは、WAmazing による取り組みがインバウンド観光客の地方分散化に効果的であることが紹介され、議論ではタビマエなどのインバウンド観光客への訪日前の情報提供の重要性が示された。



加藤 史子 WAmazing 株式会社 代表取締役社長 CEO

鶴本氏からは、旅行・宿泊業界におけるデジタル活用の事例が紹介され、議論では日本以上にデジタル化が進んでいるアジア圏の旅行者等に対応するため、デジタルトランスフォーメーションを進めていくことの重要性が示された。



鶴本 浩司 トラベルボイス株式会社 代表取締役社長

総括として清水教授より、技術・サービス革新の最新情報を素早くキャッチすること、宿泊・観光のデジタルトランスフォーメーションを進めていくキープレーヤーを作ることが重要となってくることが示された。



清水 哲夫 首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域教授